



五中だより

自分には
何ができるか

第7号(11月号)
令和7年11月14日(金)
調布市立第五中学校
校長 中谷 愛

校長先生のお話

【デフリンピック ～音や言葉が「見える」大会～】

私たちの生活の中で、当たり前でありながらも、失ったら困る、貴重なものとは何でしょうか。たくさんあると思いますが、その一つはやはりコミュニケーションだと思います。

皆さんはデフリンピックをご存知ですか。4年に1回開催される、耳が聞こえない、聞こえにくいアスリートのための国際スポーツ大会です。1924年にパリで始まったデフリンピックは今年で100周年を迎え、その記念すべき節目に日本初の東京で開催されます。

デフアスリートの方のお話では、「スポーツをするときの、聞こえない＝喋れない、どうコミュニケーションを取ればいい?」といった質問が多く寄せられるそうです。試合を行うときに当たり前のように使われる合図の笛や、審判やチームメイトからの声かけ、こういったものがわからないとき、どのようなルールでスポーツができるのでしょうか。実際には筆談、ジェスチャー、手話、文字起こし、そのほかにも多彩な方法があり、「デフスポーツならではの多様なコミュニケーションの世界をぜひ知ってほしい」といいます。

例えば、陸上競技。先日東京で世界陸上が開催されていて、テレビ、または生で観戦しながら、胸を熱くした方も多いと思います。今月開催されるデフリンピックの陸上競技では、スタートの合図はピストルと連動するスタートランプです。「位置について」で「赤色」、「よーい」で「黄色」、「スタート」が「緑色」です。それは想像の通り、閃光にかける勝負です。静寂のなかで一斉にスタートする瞬間は、会場の観客全体が息を飲みます。

デフリンピックでは、聴覚検査で55デシベル以下の音が聞こえないデフアスリートの方が参加でき、競技中は補聴器などを外して、全員が公平に聞こえない状況で競技を行うルールになっています。よく、「音や言葉が見える大会」と呼ばれています。つまり、見ることでアスリートの鼓動が響いてくるスポーツなのです。それでは、観戦をするときには、どのように応援すればよいのでしょうか。コミュニケーションは相手意識に立ったものでなければなりません。音のない世界で、限界に挑戦されるアスリートの方々にどのようにして「がんばれ!」のメッセージを届ければ良いのか。ぜひ、皆さんに考えてみてほしいと思います。

今月15日から26日まで21競技が日本で開催されるデフリンピック。チーム同士がどのようなコミュニケーションを取り、協力しあいながら勝ちを目指していくのか、アスリート達がその過程でどのようにチームの絆を深めていくのか、五中生には、ぜひ、一度は観てみていただきたいです。一年生には、学年行事としてバドミントン観戦を予定しています。アスリートの方の生の迫力を見て、皆さんにとってのコミュニケーションとは何か、を今一度振り返り、考える機会にしてください。



JICA 国際協力出前講座

2年

～世界を知ろう! JICA ボランティアの経験から学ぶ～

2学年は、10月20日(月)、JICA ボランティアの経験者を講師としてお招きし、「JICA 国際協力出前講座」を行いました。これは、世界の国の文化や人々の暮らしを知ることで、異文化を理解し、国際的な感覚を培うことを目的としています。講師の方々はおセアニアにあるバヌアツ共和国や、アフリカにあるルワンダ共和国などで活躍された経験から、開発途上国の実情や日本との関係など貴重なお話をしてくれました。また、ボランティアを志した理由や、やりがい、苦労したことなども伺うことができました。生徒たちには、自身の生き方や将来を考える素晴らしい機会となりました。



調布市教育委員会表彰について

調布市教育委員会では、学習やスポーツ、文化活動などで他の模範となる優秀な活動を行った児童・生徒の皆さんや学校教育等に貢献いただいた方々の功績をたたえ、表彰を行っています。

詳細は、右記の二次元コードを読み込んでいただくか、すぐる配信でご確認ください。



《 おねがい 》

給食当番の生徒は、各自、マスクを持参することになっています。ご自宅でご用意ください。よろしくお願いいたします。

保健室の

「(また)お会いしましょう」



第五中学校 校内研究について

研究主任 橋本 浩

今回は、本校の校内研究の取組について特集します。

本校では令和4-5年度の研究発表以来、「学び合い、支え合い、高め合える学習集団の形成」という研究テーマを変えずに校内研究を進めているところです。教職員のメンバーが変わっても、「全員が同じ方向を向いて、持続的に、かつ組織的に授業研究や教育活動に臨めるようにする」ことを大切にしています。

具体的な取り組みとしては、学期に1回の研究授業や、講師の先生をお招きしての協議会があります。1つの授業を、教職員全員で参観し、そのあとの協議会で意見交換や講師の先生からの講評をいただくという取り組みです。

【研究授業の様子】



また、教科を越えて、教職員の授業力を高め、実践した授業の工夫を共有・発展させるため、「ミニ研究授業 DAYS」と名付けた研究期間も設けています。

この期間中は、同教科・他教科・同学年・他学年関係なく、お互いの授業を自由に参観し合うことによって、他教科の見方・考え方や「5つの学習活動」に触れ、教科横断な視点をもった指導を充実させることができるというメリットがあります。

こうした校内研究や生徒のみなさんの学習活動を支えるための代表的な取り組みには、生徒のみなさんが主体となって行う「お話タイム」というものもあります。


【「5つの学習活動」を支える校内の取組】

(3) お話タイム

生徒が定期的に話し合うことで、**対話的・協働的な学びの習慣**を身に付ける。

＜約束事＞

- ① 4人以下（話し合い班）で話し合う。
- ② 自分の考えを、理由とともに伝え、聴き合う。
- ③ 必ず一人1回は発言する。
- ④ 友達の話に否定しない。
- ⑤ テーマと関係ない話はしない。
- ⑥ 楽しく話すのはいいが、ふざけて話すのはNG。



★ 毎週水曜日、朝読書の時間（10分間）に実施
★ お題は生徒会本部役員が中心となって作成
※ 自分の考えをもち、他者と伝え合えるお題
※ YES/NOクエスチョンではなく、話を広げることができるお題

この定期的な話し合い活動が、授業の一場面に生きてくという仕組みになっています。これらを合わせて、生徒のみなさんがより理解を深め、より愉しく学習を進めていけるよう工夫して授業づくりをしています。

冒頭でお伝えしたように、「教職員のメンバーが変わっても、全員が同じ方向を向いて、持続的に、かつ組織的に授業研究や教育活動に臨めるようにする」ことが、第五中学校の大切なコンセプトになっていますので、今後もこれらの取組を継続していく予定です。

保護者の皆様も、学校公開週間等をご利用いただき、お気軽に授業をご参観ください。お待ちしております。

笑顔と学びの体験活動プロジェクト

1年

10月27日(月)、1年生を対象に、落語家の立川志の春さんをお迎えして、落語の会が開かれました。日本の伝統文化を通して、その歴史や表現のすばらしさを体験的に学ぶことを目的としています。

目の前で繰り広げられる巧みな話芸を、直接観て聴くことで、日本文化への理解を深めることができました。



音楽鑑賞教室

2年



11月7日(金)、2年生は、調布市グリーンホールで行われた音楽鑑賞教室に参加しました。

これは音楽活動の楽しさを体験して音楽文化に親しみ、音楽によって明るく豊かな生活ができるようになることを狙いとしています。

モーツァルトの「フィガロの結婚」やチャイコフスキーの「白鳥の湖」など、誰もが聞きなじみのある曲を交響楽団パシフィックフィルハーモニア東京の本格的な演奏で楽しみました。

セーフティ教室

全年

10月24日(金)に、調布警察署から講師をお迎えして、「セーフティー教室」を開催しました。

第一部は全校生徒を対象に、昨今問題となっている、インターネットやSNSを使った薬物乱用の危険性をお話いただきました。また続けて行われた第二部では、有志の保護者、地域の皆さまと学校、警察との情報交換を行いました。

□■ 11月の指導の重点 ■□

落ち着いた学習環境を整え、

全力で学習に取り組む学校を目指す

- 1 教室の環境整備を再点検する（掲示物・清掃状況）
- 2 教室での言語環境を整える（言葉遣い・発言方法）
- 3 これまでを振り返り、家庭学習の課題を明確にする

《学校住所・電話番号》

〒182-0035 調布市上石原3丁目27番地1

電話 042 (484) 1311

ホームページURL

<https://www.chofu-schools.jp/chofu5/>

